

広汎型重度慢性歯周炎患者に

矯正治療を併用した再生療法を行った1症例

Regenerative therapy with orthodontics treatment on a case of generalized severe chronic periodontal disease patient : A case report

川里 邦夫

KAWASATO Kunio

キーワード：矯正治療、再生療法、垂直性骨欠損、水平性骨欠損

諸言

重度歯周炎による1~2壁性の大きな垂直性骨欠損の骨再生を行うことは容易ではない。しかも、水平性骨欠損を再生療法だけで行うには限界がある。矯正治療と再生療法により水平性骨欠損、垂直性骨欠損を改善し、経過良好な症例を経験したので報告する。

I級、左側アングルII級の咬合関係であった。(図1)

エックス線所見

全顎的に水平性および垂直性の骨吸収があり、特に、上顎左側に多くの垂直性骨欠損が認められた。左下7に根分岐部病変、下顎4前歯は骨欠損が著名で保存不可能であった。(図2)

初診時所見

患者:66歳、女性

初診:2003年 12月

主訴:右下Brの脱離・歯が磨きにくい

職業:主婦

全身的既往歴:特記事項なし

歯科的既往歴:十数年来歯科治療を受けていない

口腔内所見

全顎的に歯肉の発赤・腫脹が認められ、プラークコントロールは不良であった。4mm以上のPPDは30%、Bopは33%であった。多数歯にわたる動揺があり、病的な歯牙移動、顎位の偏位が疑われた。右側アングル

診断:広汎型重度慢性歯周炎

治療計画

1. 歯周基本治療にて炎症性、外傷性因子の除去 SRP プロビジョナルレストレーションを装着
2. 再評価検査
3. 矯正治療 31,32,41,42 歯 抜歯
4. 再評価検査
5. 歯周外科処置 (21,22,23,24,25 歯 /47 歯) 27,36,16,46 部にインプラント埋入
6. 再評価検査
7. 最終補綴処置
8. SPT

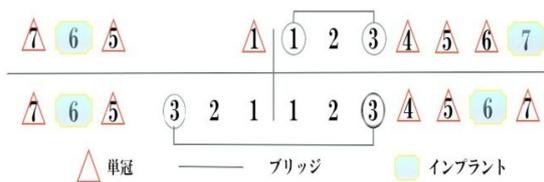


図 1 1 最終補綴設計

矯正治療と再生療法により水平性骨欠損、垂直性骨欠損が改善された後、インプラントによって動揺歯のコントロールを行った。残存歯の動揺がなくなったため、左上 1 2 3、下顎 6 前歯以外はすべて連結することなく、単冠での修復となった。

考察

付着を喪失した天然歯周囲の骨欠損を再生する方法としては、廓清、骨移植、GTR、エムドゲイン、矯正治療の 5 つが考えられるが、骨の欠損形態、大きさ、などによって適応症が異なってくる。今回、矯正と歯周病治療の併用で、エビデンスに基づいた治療手順・治療期間を遵守したことが結果に繋がっている。水平性骨吸収への対応として、歯根を歯槽骨内の適切な位置に戻すように歯を移動させた場合、唇側の裂開部が回復し、アタッチメントレベルの変化は見られなかったと報告されている（参考文献 1）。それで、基底骨から唇側に露出した上顎前歯の歯根を適切な位置に戻すよう試みた。また、垂直性の骨欠損部の再生療法としてエムドゲインを使用した。矯正前の再生療法によって新しい結合的な付着で治癒させ、矯正後の骨再生につながる結果となった（参考文献 2）。残念ながら、上顎左側側切歯は抜歯になってしまったが、もともと隣在する歯牙に歯根膜が残っていなか

ったため、致し方ない結果と考えている。

まとめ

水平・垂直性骨欠損を歯周外科のみでなく、矯正治療を併用することで、手術の回数を減らし、期待どおりの改善を得ることができた。矯正と歯周外科の後、動揺歯の固定・欠損歯列への対応から補綴設計を考えたが、インプラントがなければ、対応が困難であったと想像される。広汎型重度慢性歯周炎における機能と審美の回復ならびに術後の予知性は、歯周病学・歯科矯正学・歯科補綴学・インプラント・咬合の 5 つの分野を的確にマネジメントすることで得られる。

謝辞

稿を終えるにあたり、このような機会を与えて下さった、日本臨床歯周病学会関西支部長山野総一郎先生、査読を引き受けて下さいました小林守先生に厚く御礼申し上げます。

今回の症例を共に手掛けた、DH 鈴木朋湖先生、DT 西村好美先生、多数の助言を下さいました本多正明先生、そして日々私の診療を支えてくれる Serendipity かわさと歯科のスタッフの皆に感謝の意を表します。

参考文献

- 1) Clinical Periodontology and Implant Dentistry 3rd edition Jan Lindhe 1998
- 2) Perio 2006. 4(1):7-14
Orthodontic tissue remodeliling and periodontal healing
Isabele Juzanx .Jean-Louis Giovannoni